

大人ができることって？ ～ネット社会に生きるこどもたちのために～

(人権課題)

インターネットによる
人権侵害

学習プログラムの説明

インターネットの普及により生活が便利になった一方で、こどもたちが人権侵害を受けるトラブルも発生しています。こどもたちがインターネット上の人権侵害の被害者にも加害者にもならないよう、大人ができることを考えるプログラムです。日常の身近なエピソードから、登場人物の言動について参加者同士で語り合う中で、人権問題を正しく理解し、その対応について考えます。公民館講座やこども会・育成会指導者研修、PTA・教職員研修などで活用できます。

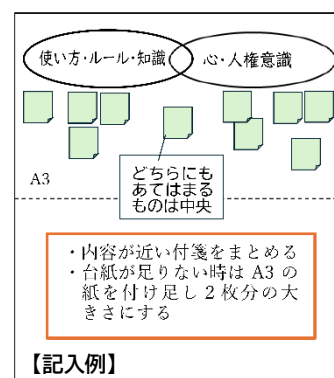
ねらい

インターネットを介して起こるトラブルの一事例から、インターネットは使う側の意識次第で人権侵害につながる危険性があることに気づき、ネット社会に生きるこどもたちを被害者や加害者にさせないために、私たち大人ができることは何かを考えます。

参加者の人権意識を高めるポイント

エピソードをもとに人権侵害が起きやすい主な要因を考えることをとおして、ネットの向こう側にいる相手への配慮やその人権を尊重しようとする心を育むことの大切さについて意識を高めることが期待できます。

	時間	40分	準備物	主催者	資料①②③ 付箋紙(75×75mm) 水性ペン 台紙(A3用紙、模造紙、ポスターの裏紙の再利用も可) ファシリテーターの声かけ例(留意点)
				参加者	筆記用具
導入	1 アイスブレイキング：インターネットの話題で自己紹介する 【5分】 (1) 自己紹介と併せて、日頃よく使うアプリやよく見る動画について話す。 (2) インターネットの便利さ、良さについて資料1で確認する。				
展開	2 メインアクティビティ：エピソードを読み、大人としてどのように行動したらよいか考える 【25分】 (1) 資料2：エピソードを読んで問題と感ずることについて、各自で付箋紙1枚につき一つずつ書き出す。(5分) (2) 書き出した付箋紙の内容をグループ内で発表しながら、二つのカテゴリー、「使い方・ルール・知識」と「心・人権意識」に分類(台紙のページを使用)して、内容の近いものをまとめて台紙に貼る。(10分) (3) エピソードから、なぜこどもたちがインターネット上でのトラブルに巻き込まれやすいのか、その要因について、「心・人権意識」の面からグループで話し合う。(10分)				
まとめ	3 ふりかえり 【10分】 (1) こどもたちが人権侵害の被害者にも加害者にもならないよう、私たち大人ができることや気を付けなければならないことについて、グループで話し合う。(5分) (2) グループで話し合ったことを全体で共有する。(3分) (3) 資料3を読む。(2分)				



ファシリテーターの声かけ例(留意点)

導入(アイスブレイキング) 時間：5分

(1) はじめにグループ内で順番に自己紹介をします。その際、あなたが日頃よく使うアプリやよく見る動画などについても紹介しましょう。(一人30秒～1分程度、全体で4分)

(ファシリテーターが各グループで最初の人を指名)

(2) **(4分後)** みなさんいかがでしたか？私たちの生活には、インターネットの情報がいつも身近にありますね。では、**資料1**を御覧ください。こちらにはインターネットの便利な使い方について紹介されています(資料を見る時間を少しとる)。インターネットによって、私たちの生活はとても便利で快適になりましたね。しかし、資料にもあるように、自由な表現が尊重される一方で、守られるべき権利があることについても考えなければなりませんね。

展開(メインアクティビティ) 時間：25分

(1) 次に、**資料2**のエピソードを読みましょう。**(1分後)** 読み終わったら、エピソードの内容、登場人物の言動などについて問題だと感じることを配付してある付箋紙に書いてください。付箋1枚につき一つ記入してください。時間は4分です。それでは始めてください。

(2) **(4分後)** 4分経ちましたので、グループ内で共有します。グループにある台紙を机の上に広げます。台紙の上の方に、二つのカテゴリー「使い方・ルール・知識」「心・人権意識」と書かれています(記入例参照)。グループ内で順番に、自分が付箋に書いたことを1枚ずつ発表します。その際、①二つのカテゴリーのいずれか当てはまる方へ、どちらにも当てはまるという場合は二つのカテゴリーの間に、②内容の近いものをまとまりにしながら貼りましょう。時間は8分です。

(3) **(8分後)** エピソードのようなトラブルは、私たちの日常でも起こりやすい出来事ではないでしょうか。なぜインターネット上ではトラブルが起こりやすいのでしょうか。「使い方・ルール・知識」で出た問題を解決するために**ネットリテラシー**※を高めることも重要な課題ですが、本日は「心・人権意識」の面を深く考えていきたいと思います。「心・人権意識」で出された問題のまとまりを引き起こしている要因についてグループで話し合い、キーワードや簡単な文を、まとめた付箋の近くに書いてみましょう。時間は8分です。

(予想される意見：「心・人権意識」相手の気持ちを考えた言動が未熟、先を予想した行動が未熟、友達の雰囲気にならざるが、大人自身の使い方の見直しが必要等)

(8分後) どんな意見が出たか、数グループに発表をしてもらいたいと思います。

(発表後) みなさんの発表にもあったように、インターネットは便利ではありますが、危険も隣り合わせにあります。まだまだ発達段階にあることもたちが、大人と同じインターネットを利用するので、子どもたちの人権意識を高めるために周囲の大人の振る舞いがとても大切になってくることも確認できたのではないのでしょうか。

まとめ・ふりかえり 時間：10分

(1) ここからふりかえりをします。私たちの身近にいる子どもたちが、人権侵害の被害者にも加害者にもならないよう、子どもたちの身近にいる大人としてできることや気を付けなければならないことについて、先ほどのワークをもとにグループで話し合ってみましょう。**(付箋を貼った台紙を見ながら考えてみるよう促してもよい)** 時間は5分です。

(2) **(5分後)** グループで話し合ったことを全体で発表し合います。グループでどなたか1名が代表して、話し合った内容について簡単に発表してください。(残り時間によっては数グループの発表にする)(3分)

(3) ありがとうございます。最後に**資料3**を見てください。今日はエピソードの事例から考えてみましたが、インターネットの人権侵害に関わる事例は様々です。ネット社会に生きる子どもたちが自分も相手も大切にしたい言動がとれるよう、私たち大人ができることから関わっていくことが大切なのではないのでしょうか。また、私たち大人自身もインターネットの使い方を見直すことも重要です。今日のワークショップで考えたこと、気付いたことを、これからの生活で生かせるといいですね。(2分)

※「ネットリテラシー」…インターネット上の情報を適切に判断し、安全かつ効果的に利用する能力

ネットは便利！

インターネットは、パソコンやスマートフォン、タブレットなどを使って簡単に利用できます。また、様々なアプリや SNS の活用により、コミュニケーションの輪が広がります。世界中の WEB サイトにアクセスできたり、遠く離れた人とも写真や動画を共有することができたりと、インターネットは世界中の様々な人やモノとつながることができる便利なツールです。

ネットの便利な使い方

他にも
いろいろ

楽しみが広がる！

漫画、ゲーム、映画、投稿された動画などを気軽に楽しめます。



勉強に 利用できる！

様々な学習に利用でき、勉強の手助けをしてくれます。



自分の意見や作品を 発表できる！

SNS などを使い、自分の意見や小説、漫画、音楽、動画など、自由に発表することができます。



障害のある人の 行動範囲が広がる！

メールや読み上げソフトなどは、障害のある人の意思疎通にも役立てられています。



**インターネットと人権はどのように関係しているのでしょうか？
自由な表現が尊重される一方、
守られるべき権利があることを忘れてはなりません。**

エピソード

ユウコさんは、ひまりさん(小学6年生)のお母さんです。家族で相談し、悩んだ末に最近になってひまりさんにスマートフォンを持たせることにしました。

ある日、ユウコさんが仕事から帰ると、先に学校から帰って来ていたひまりさんが、スマートフォンを持ったまま自分の部屋に閉じこもっています。夕飯の時間になっても、部屋から出てきません。心配になったユウコさんは、ひまりさんの部屋の前から話しかけました。

母 : 「ひまり、どうしたの？」

ひまり : 「……別に、何でもないよ。」

母 : 「まったく、最近スマートフォンばかり…。」

ひまり : 「うるさいなあ、今、クラスのみんなどメッセージをやりとりしてるから忙しいの!ほっといてよ。」

母 : 「今日はもうダメよ。こんなに長い時間、いったいどうしたの？」

ひまり : 「…えーと、あのね、私、この前のお祭りの写真をクラスのグループでやっている SNS に送ったら、その写真の中に友達が変な顔で写っちゃっている写真が混ざってて、変な顔をみんなに見られた友達が、ショックで今日、学校を休んじゃったんだ…。」

母 : 「えっ、大変じゃない!画像を送るときは注意してねって言ってあったよね？」

ひまり : 「だって、この前のお祭りで、みんなの家の人たちが撮ってくれた写真を誰かがグループの SNS で送りはじめたから、私はお母さんからもらった写真を送ってみただけだよ。みんな、『いいね』って押してくれたし、お母さんだって SNS にたくさん家族の写真載せてるでしょ。まさか、こんなことになるなんて思わなかったよ…。それに、意地悪するつもりで送ったわけじゃないもん。クラスのみんなども、普通はそんなの気にしないよ、大丈夫だよって言ってるよ。」

ネットで相手を傷つけないために

ネット上の書き込み、情報発信には責任が伴います。

これまで取り上げてきたトラブル事例から振り返ってみましょう。

- 自分は軽い気持ちであっても、相手を深く傷つける可能性があることを理解し、相手の立場に立ち、考えてから発信するようにしましょう。

- 本人の許可なく、他人の写真や個人情報を投稿したり、書き込みを他の場所に転載したりしないようにしましょう。



- 誰かに対する意見や感想を投稿するときは、誹謗中傷につながる内容になっていないかどうかを十分に考えましょう。



- 誰かのメッセージを見て嫌な気持ちになったとき、すぐに相手に感情をぶつけるのではなく、一呼吸して落ち着いてから、相手の意図を確認するようにしましょう。



インターネット上でも実生活でも、互いを思いやる必要があります。誰もが楽しくインターネットを利用できるよう、私たち一人ひとりが心がけて行動しましょう。

- 他人が発信した情報を再投稿・拡散する前に、その情報が正しいかどうか、他人の不利益にならないかどうかを十分に考えましょう。

使い方・ルール・知識

心・人権意識

心・人権意識

使い方・ルール・知識